

●まち育ての専門家派遣事業

先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を行い、地域課題に対する複合的な解決策の提示を推進しました。

①専門家派遣

法政大学法学部「公共政策フィールドワーク」岡崎現地研修コーディネーター、岡崎市「未来の南公園」コーディネーター



②委員会等での助言

岡崎市乙川リバーフロント地区かわまちづくり協議会、岡崎市市民協働推進委員会、岡崎市景観審議会、岡崎市景観整備機構連絡協議会、NPOと行政の協働に関する実務者会議、岡崎市地域福祉計画事業検討部会、岡崎市公園協議会、岡崎市歴史まちづくり協議会、岡崎市文化財保存活用地域計画協議会、岡崎市「どうする家康」着地型旅行商品審査会

●まち育てコーディネーター養成業務

今年度新たに入社したスタッフに対し、りた職員に対して求められる基本的な考え方や基礎的な知識を習得、多岐に渡るまちづくりにおける中間支援の概要に触れることで職員としての自覚を促しました。一方、管理職者向け研修では、プロジェクト担当者から、事業のポイントや課題分析を直接聞き、意見交換することで、まち育てコーディネーターとして地域に関わる意義を改めて認識し、その方法論を学びました。



2022年度の展望

3つの重点項目

拠点運営の見直しと強化 地域課題解決の支援 公共空間の整備・利活用促進

2025年には、約800万人いる団塊世代が後期高齢者となり、国民の4人に1人が後期高齢者という超高齢化社会を迎えます。団塊世代以降、人口ボリュームは少なくなるため、今後見かけ上の高齢化率がそれほど変わらずとも、一般的に地域の担い手の主力となっている前期高齢者の割合が減り、要介護者が増加する後期高齢者の割合が増え、地域の担い手不足はますます深刻化することが危惧されています。

こうした地域活動の担い手の枯渇以外にも、今後10年ほどで医療介護費の増大、暮らしを支える商店・飲食店の減少、農林業・伝統産業の担い手の継承問題、脱炭素化に伴う社会環境の変化、気候変動による自然災害の激甚化、南海トラフ大地震の発生、そして長引く新型コロナウィルス禍の影響による社会経済活動の変化など、地域社会にネガティブなインパクトをもたらす要因が山積みです。そこで、多様化・複雑化する社会課題・地域課題に立ち向かうためにこれまで培った地縁組織や市民活動団体、事業者、行政とのネットワークを活かし、課題の解決に向けた地域支援にこれまで以上に力をそいでいくと同時に、それぞれの地域で人口動態や生活環境の変化の分析、既存の担い手の発掘を通じて、地域社会に必要なサービスや活動の原資、サービスの供給主体、受益者等からなるサプライチェーンをよみとく「まちと暮らしの生態系」を強化する活動に取り組んでいきます。

まちのミカタ

Litaracy 一りたらしいー



QURUWAシンポジウム



下山のよりよい未来を考えるワークショップ



公園愛護運営会によるプランター菜園



年表で活動を見る化！
～団体の履歴書を作ろう～

特集

2021年度のりた

りたは、市民及び市民団体、企業が行う社会貢献活動を促進し、市民・企業・行政が相互に参加や協力するまち育てを支援することで、岡崎市の協働型社会づくりを促進することを目的として掲げています。

2021年度は、前年度に引き続き新型コロナウィルスの影響により市民活動や地域活動、対面で集まるイベント等への制約がある中で、オンラインツールを活用した活動の継続や各種活動の見直しに重点を置き、市民活動団体や地縁組織の支援を行いました。

また、新たに自主事業として中山間地域の持続可能な地域づくりに向けた取組や、市外のまちづくりプロジェクトのコーディネート業務の増加などが当年度のトピックとして挙げられます。QURUWAエリアでのまちづくりや、地域包括ケアシステム支援、公園愛護運営会の設立・運営支援など、これまで継続して関わってきたプロジェクトも着実に成熟・進化を続けています。

本項では、これら2021年度に実施した事業内容や成果、次年度以降の展望についてまとめています。

まちのミカタ

Litaracy

発行・編集

特定非営利活動法人
岡崎まち育てセンター・リタ-

配 布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送 等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／
FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／angelshare／cafeくらがり／
松應寺

2022.07vol.116

りたの「3つの主要テーマ」に対する成果

●地域の活力を高める

市民活動および地域活動の拠点施設(地域交流センター)の管理運営を通じて、市民自治・地域自治の礎となる地域の担い手を掘り起こし、市民活動団体による公益活動の場づくり、中学生・高校生・大学生の社会参加の場づくり、市民活動や地域活動へのボランティアマッチングを推進しました。

日常的な窓口業務や情報の受発信、事業実施により蓄積されたネットワークを活かし、地域の課題解決や地域資源を活用する担い手を掘り起こし、市民協働型社会の実現に向けた活動を行いました。

【該当事業】地域交流センター指定管理、まちびとバンクほか

●地域の資源を活かす

河川、公園、道路などの公共空間、そしてその場所を積極的に活用する市民、団体、事業者を地域の資源としてとらえ、公共空間のより豊かな使われ方を見出し、その場所ならではの価値として意味付け、それらを具現化し、持続させるための活動と結び付け、地域の魅力向上に貢献しました。

【該当事業】乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業、かわまちづくり運営支援事業、公園愛護運営会設立支援業務ほか

●地域の課題を解決する

少子高齢化、空き家の増加、防災、子育て支援など、山積する地域課題に対して、地域包括支援センター、社会福祉協議会、学区福祉委員会など既存の担い手との連携や、社会貢献意欲のある個人や団体、ボランティアなどの担い手の発掘およびマッチングを通じて、地域の課題解決を支援しました。とりわけ本年度は、りた自主事業として、自主財源および東海ろうきんNPO育成助成金を活用し、過疎化の進む中山間地(下山学区)において地元と連携して持続可能な地域づくりに向けた取組に着手し、新設された岡崎市中山間政策課の協力も取り付け、地域課題の把握と課題解決のために機運醸成に寄与しました。【該当事業】地域包括ケア支援事業、籠田公園・中央緑道周辺地区の地域経営支援業務、中山間関係人口創出プロジェクト、市民活動支援ほか

数字で見る「りた」2021

決算額(経常費用)

2億740万円

中間山地の関係人口創出プロジェクトや、地域包括ケアシステム支援業務、乙川リバーフロント地区のまちづくりデザイン事業など地域の課題を地域で解決していく支援をしてきました。また、市外のまちづくり事業にも着手した1年でした。

従業員数

70人

(常勤職員17人・パート等53人)
このほかに、アルバイト、プロジェクトスタッフもいます。(2022年3月末現在)

交流センター 年間利用者数合計

約21万人

昨年度に比べ、5万人増加しているもののコロナ禍以前の半数ほどの利用者数となりました。

ボランティア役務提供額(955円/h換算)

209万円

「りた」の事業に関わっていただいたボランティアの延べ活動時間数を賃金換算して可視化。2021年度も非常に多くのボランティアに支えられました。(延べ1,116名2190時間)

「まちびとバンク」ボランティア マッチング人数/募集依頼件数

1,326人/41件

地域交流センターと市民活動センターで1年間に受け付けた「まちびとバンク」のボランティア募集依頼件数とマッチング数です。

●公園愛護運営会等設立支援業務

岡崎市緑の基本計画に基づき、公園の管理と活用を推進する組織「公園愛護運営会」の設立の可能性を調査し、設立準備から立ち上がった地区に対して愛護運営会の設立支援を行いました。その結果、今度は3つの愛護運営会が設立されました。また、設立後2年以上が経った春咲3公園、岩津北公園、棚田公園の公園愛護運営会の現状を把握し、その情報を関係者と共有しました。(☞Literacy112参照)



●愛・地球博記念公園

マネジメント会議・コーディネーター派遣事業

愛・地球博記念公園マネジメント会議(NPO、企業、大学、行政など総勢70名程度の会員が参加)の会議ファシリテーション支援を行いました。また、公園マネジメント会議の歴史を振り返る冊子の編集作成、および活動PR用の動画作成を支援しました。



●名古屋駅西地区まちづくり推進会議・部会運営事業

名古屋駅西地区まちづくり推進会議(以下「エキニシタウン会議」)に設置された部会において、エキニシタウン会議で検討された駅西地区のまちの将来像を実現するための取組等について部会での議論を進めるとともに、各活動へつなげていきました。



●瑞穂運動公園PFI・児童園デザインWS支援事業

瑞穂公園(名古屋市瑞穂区)内児童園(全3園)に関する市民参加型ワークショップ(全3回)を監修。公園の管理や活用に関わる市民意識を醸成することができました。また、3つの児童園の基本設計等に地元の意見を反映させました。



●三郷駅前まち育てプロジェクト

尾張旭市が愛知県立芸術大学とまちづくりに関する協定を締結しました。これを受け、「愛知県芸術大学受託事業三郷駅前周辺デザイン意思決定支援業務」により、愛知県立芸術大学は、地権者を含む三郷駅周辺市民らが駅前開発事業区域及びそれを核とした近隣のまちづくりの良いビジョンを貢献しようとしています。りたは、効果的に事業を推進するために地域創生の視点からアドバイスを行うとともに、専門的な協力を行いました。



●ささしま地区高架下空間のデザインワークショップ事業

名古屋駅前広場にある名古屋駅モニュメントの移設が行われるにあたり、移設先の候補地であるささしまライブ地区名古屋高速高架下の名古屋市の所有地の周辺環境と協調し合う基本設計の検討を行いました。また、この検討に市民等の意見を反映してデザインの質を高め、さらにモニュメントを含む広場の活用に向けた主体形成を促しました。



まち育て推進チーム／市民活動支援チーム

2021年度の事業(抜粋)

●乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン事業

乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用して、公民連携事業を実施することにより、回遊性を高めまちの活性化をはかる事業。本年度は、シンポジウムの開催、および籠田公園・中央緑道周辺地区におけるエリアマネジメントの実現を目的とする支援を行うことにより、QURUWA戦略の推進を図りました。(☞Litaracy111参照)

①シンポジウム企画運営業務

QURUWAで活動する地元の方々にもパネルディスカッションに参加いただいたことで、「民有地の活用と更新」「豊かな暮らしの実現」というテーマの重要性を示すことができました。また、住宅地・商業地・業務地の性格が共存し、かつ自然と近いという地域特性をもつ岡崎ならではの都市経営の方向性が見出されました。

②籠田公園・中央緑道周辺地区 地域経営支援業務

「7町・広域連合会の推進主体の継続性を高めること」という命題に対して、現役世代の住民や商店主・公的組織を含む事業者、行政の若手担当を中心に、7月「KCBM次世代の会」を発足。月1回の頻度で定期的に議論・検討を進めました。

●中山間地関係人口創出

中山間地の地域住民だけでなく、市域全体で課題と資源を分かち合うパートナーシップを築き、共に支えることで持続可能な地域づくりのモデル構築を目指すことを目的とした事業。今年度は、下山地区を対象として、地域の生活環境や住民の意向把握、遊休資産の実態と所有者の意向調査及び今後の取組の方針検討を行いました。

(☞Litaracy114参照)

●地域包括ケアシステム支援業務

地域包括支援センター(以下「包括」)は、地域団体、ボランティア、医療機関、教育機関を巻き込んだ「地域包括支援システム」の構築を進めています。今年度は、生活支援体制構築事業を担う立場から、会議ファシリテーション、広報などの包括の活動支援を行いました。

①つながりアップゼミ

包括職員を対象に包括が地域との繋がりをつくる能力を高めることを学ぶための会議を運営しました。

②役割と居場所に溢れるまちミーティング

いたを含む、岡崎市ふくし相談課、社会福祉協議会、コミュニティーソーシャルワーカーなど市内全域を対象として、地域共生社会の実現、推進を図るために意見交換の場を企画運営しました。(☞Litaracy113参照)

③終活ワーキング

終活すごろくの付属品として、すごろくの企画意図や用語の解説をする「健康長寿国の入国パスポート」を作成。ふくし相談課とやりとりし、見せ方の提案と作成支援を行いました。



北部地域交流センター・なごみん

2021年度の事業(抜粋)

●つながるプロジェクト

聴学校が取り組む社会貢献活動と地域活動や市民をつなげることを目的に接点をつくるための手話講座を開催しました。その結果、地域資源の保全活動をしている市民活動団体とのマッチングが成立しました。



●地域活動サミットin北部
～オンライン体験会＆アドバイス会～
コロナ禍での市民活動衰退を防ぐことを目的に、オンラインツールの模擬体験及びアドバイス会を開催。意見交換を行ったことでオンライン対応のスキルアップにつながりました。



●わくわく体験スクール
地域ぐるみの次世代育成を目的に市民活動団体や事業者と協働して小学生対象の体験学習イベントを開催。こどもたちが地域に関心をもつきっかけを提供しました。



●花咲ボランティア
花壇の管理をボランティアメンバーが主体的に行える環境を整えることで交流の場および施設への愛着心を育みました。

南部地域交流センター・よりなん

2021年度の事業(抜粋)

●防災講習会

防災意識の啓発を目的に、岡崎市の南部地域で町内活動などに携わる方を対象に、防災団体による講習会並びに展示会を開催しました。



●生きがいづくり促進事業
高齢者の生きがい創出をテーマに様々な体験ができる講座を開催。講師団体には、高齢者問題を共有でき、意識の向上につながることができました。



●サマースペシャル
～キッチン丸withよりなん～
公益活動の促進を目的に子ども食堂を運営している市民活動団体と協働し、大人と子どもが一緒に楽しめる体験型イベントを開催しました。



●よりなん感謝祭

公益的な活動を活発にしている団体を公募し、ビデオ放映、作品展示や物品販売を行いました。来館者が市民活動に触れ、啓発する機会を創出しました。



●よりなん彩飾
和やかで親しみやすい施設を演出するために、四季折々の飾りつけをスタッフだけでなく、ボランティア、来館者の方とともに実施しました。



西部地域交流センター・やはぎかん



2021年度の事業(抜粋)



●防災講座

～女性のための防災のススメ～
地域の防災意識向上を目的とした講座。矢作東地区婦人自主防災クラブとともに災害時女性が直面する課題について学べる機会を提供しました。



●市民活動フェス

公益活動をしている団体が集まり、活動を発信すると共に団体同士の横のつながりを創出しました。また、団体同士が協調し相互理解を深めることで積極的な参加を希望する団体も現れました。



●親子で遊ぼう！子どもの国

幼児教育の学びの場の提供や多世代交流、中高生のボランティアの受け皿作りを目的とした事業。多世代交流や遊びながらものづくりができる体験を学校や地縁団体、市民活動団体と連携して提供しました。



●矢作商店会紹介マップ展

まちのにぎわいを促進するための企画。岡崎城西高等学校と連携し、矢作商店会を紹介するマップを作成しました。矢作の地域資源の魅力をPRしたこと、まちの関心を深めるきっかけを提供しました。



●まち育てスクール

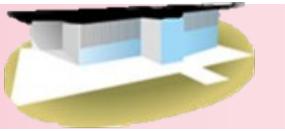
岡崎百景の会、岡崎歴史探究班と連携し、矢作地域の魅力発信や地域愛の増進を目的とした事業。小針1号古墳、北野廃寺などをまち歩きました。



●館内装飾

来館者、ボランティアに参加していました。季節ごとの飾り付けを行いました。温かみのある館内の雰囲気を創出し、施設への愛着増進を図りました。

地域交流センター六ツ美分館・悠紀の里



2021年度の事業(抜粋)



●ゆき防災講座

六ツ美地域の方を中心に、減災・防災について学ぶ機会を創出することを目的とした事業。今年度は災害時に直面する「トイレの問題」について理解を深めるためのワークショップを実施しました。



●ゆきファミリーパーク

企画や運営を通じて、団体の相互理解の向上とネットワークの強化を目的に、市民活動団体と協働して子育て支援を主としたイベントを開催。コロナ禍のため、展示会に変更して行いました。



●バンザイみんなでアート

六ツ美悠紀斎田の稻刈りの日に合わせたイベント。市民、市民活動団体、六ツ美中学校美術部の生徒と共同で、ガラスの壁面を使った1つの作品を制作しました。



●ゆきフェスタ

市民活動の啓発を目的に、市民活動団体および公益的な活動をしている団体による活動発表のイベントを開催しました。来場した市民に活動を知ってもらう機会を提供しました。



●ゆき彩展

年中行事や季節に合わせて来館者参加型館内装飾を行いました。施設への愛着を深めると同時に施設運営への市民参画を促進させ、施設の取組への理解や協力意識の向上につなげました。

東部地域交流センター・むらさきかん



2021年度の事業(抜粋)



●生きがい発見！講座

シニア層にボランティアや市民活動を啓発し、参加を促すことを目的に講座を開催。公益活動との関わりを周知することができ、興味・関心を持つもらう機会を創出しました。



●東部の活躍人！交流会

東部地域で活躍する団体が集まり、情報交換と親睦を図る交流会。「関係人口の創出」をテーマに、宮崎地区で活動している団体の事例紹介や座談会を行いました。



●むらさき麦まつり

むらさき麦や宿場を軸にした地域資源のPRや活性化を目的とした事業。コロナ禍の影響で、今年度は「藤川散策マップ」やむらさき麦細工等の展示を行いました。



●むらさきかんまつり2021

東部地域やむらさきかんを利用する団体の写真、絵画、造形作品など東部地域の魅力を発信する展示会を開催しました。また、コロナ禍でも奮闘する団体の活動紹介展示を行いました。



●集まれ！食と健康フェス

地域資源を使った地域活性化を目的に愛知学泉短期大学食物栄養科と協働して行った事業。食べ物や体に関するゲームやクイズを企画し、食育への理解を深めました。



●まち育てスクール

昨年度に引き続き、東海中学校のボランティアの皆さんと「誰かに教えたい町の魅力」を発表しました。中学生の視点を伝えることで地域の活性化に繋がりました。

りぶら市民活動センター



2021年度の事業(抜粋)



●年表で活動の見える化

～団体の履歴書を作ろう～
参加団体の履歴書を作成しました。この講座の学びの紹介と団体のPRとして、地域交流センター、市民活動センターのギャラリーにて成果物を展示了しました。



●市民活動のためのクラウドファンディング超入門講座

～おカネと仲間がどんどん集まる？！～
クラウドファンディングを通じた広報活動について、過去にクラウドファンディングに挑戦した団体から学べる講座を開講しました。



●まちびとバンク

公益活動促進のため、ボランティアをしたい人とボランティアが必要とする団体に対して422件のマッチングを行いました。(6センター全体では1326人)



●もののバンク

市民より提供された不用品をそれらを必要としている市民活動団体へ届けるシステムの運用。52件のマッチングが成立し、団体が抱えるモノ不足解消に努めました。



●まちびとステージ

「特技を発揮できる場所や機会を求めている人」と「その場所を提供できる団体」をマッチングするシステム。今年度は5件のマッチングを行いました。



●市民活動相談・市民活動情報ひろば入力支援

市民活動団体登録に対する相談はじめとした様々な市民活動に関する相談に対応しました。また、情報ひろばの利用促進を狙い、窓口にて入力支援も行いました。